

## 第368回放送番組審議会

1 日 時 2016年9月20日(火)14時～15時30分

2 場 所 tvk 第1会議室

3 委員総数 8名 出席者6名、欠席者2名 五大路子委員、二宮務委員

出席委員; 山田一廣委員長、布施勉副委員長、白石俊雄委員、林義亮委員、伊藤有壱委員、  
吉川知恵子委員

tvk;中村社長、押川取締役、嶋田報道局長、角田スポーツ部長、竹野プロデューサー、玉村編成部長

### 4 議 題 (1)放送番組

資料:①9月のタイムテーブル

②9～10月の特番一覧表

### (2)視聴合評

高校野球壮行特別番組「横浜～新たなる一歩～」

2016年8月6日(土)午後7時～7時30分

### (3)その他 報告事項

・視聴者対応

報告期間:2016年7月18日(月)～2016年9月16日(金)

・第367回(7月)放送番組審議会の議事報告

(「猫のひたいほどワイド」2016年8月9日放送VTR)

### 5 議事内容 2ページ以降に記載

6 審議期間の答申または改善意見に対してとった措置及びその年月日

7 審議機関の答申または意見の概要を公表した内容・方法及び年月日

(1) 2016年10月11日(火)「猫のひたいほどワイド」(12:00～13:30)の

「放送番組審議会からのお知らせ」コーナーで審議内容を司会者が報告

(2) 審議概要を当社インターネットホームページに掲載

玉村編成部長           それでは定刻になりましたので、第 368 回テレビ神奈川放送番組審議会を始めさせていただきます。山田先生、お願いします。

山田委員長           それでは、始めさせていただきます。昨日横浜 DeNA ベイスターズが広島に勝ちまして、3 位を確保することができ、初めてクライマックスシリーズに出ることになりまして、ファンの一人としてはとてもうれしいことだと思っています。クライマックスシリーズが導入されて今年で 10 年目ですが、これまでのベイスターズの成績は最高位は 4 位が 1 回、5 位が 2 回で、あと 6 回は最下位という大変残念な結果に終わったんですけれども。10 月 8 日から対巨人戦でクライマックスシリーズに臨むわけですが、巨人とは五分以上、広島ともほぼ互角に戦っていますので、日本シリーズに出る可能性は十分あると思います。大変楽しみです。今日の視聴合評、横浜高校ですが、横浜高校出身の選手、コーチがベイスターズには 10 人近くいるんじゃないですかね。そういった意味でも非常に横浜ベイスターズは地元とも密着していますので、これから楽しみだと思います。それでは 368 回目の番組審議委員会を始めさせていただきます。では、中村社長の方からお願いいたします。

中村社長           はい。中村でございます。今日は台風も近づいていて足元のお悪い中、ありがとうございます。今、山田委員長からもお話がございましたように、昨日の試合で、初めてのクライマックスシリーズ進出ということになったんですが。実は、私どもはあさってデイゲームなんですが、4 位のヤクルトとの直接対決があつて。ナイトゲームしか基本的にはうちはやることはなかったんですが、あさっての直接対決を特番編成で、「そこで決まるんじゃないか」と思いまして組みました。昨日決まっちゃったんで、いいんですけど、「あさってまで持ち越してくれたらな」というのが正直なところ。それはそれとして、ジャイアンツとの 2 位争いもまだ 2.5 ゲーム差なので、可能性としてはまだまだあるわけ

です。つまり2位と3位って何が違うかという、ベ이스ターズ主催でもって、つまり広島へどっちが行けるかということ争えるのか、ジャイアンツ主催ゲームになるのかと。というところ言うと、横浜の球場の中での売り上げとか、そういうことでいくと、2位と3位ではえらい経済効果も違って来るはずなので、何とかジャイアンツを逆転して、2位で主催での、2位3位のクライマックスシリーズに行けるといいなと。そうなったときにうちで中継ができるかしらという。相手がジャイアンツなのでどうなのかと、今球団の方と、もしそうなったときの可能性について打診をし始めているところでございます。野球の方はそういうことで大変期待したいわけですが、冒頭申し上げたように、今夜台風がスピードが上がっておりまして、時速45キロになっているようなので、9時か10時ごろが、雨風のピークはそのぐらいになろうかというところなんです。その前から当然ひどくなってきます。そこら辺の準備の方も怠りなく、各方面への避難勧告までいかないことを祈っておりますが、そうした対応もしっかりやっていきたいと思っております。本日もご審議のほど、よろしく願いいたします。

山田委員長

ありがとうございました。それでは本日の議題に沿って進めてまいりたいと思います。まず、放送番組について。お手元の9月のタイムテーブル、9月から10月の特番一覧表を参照していただき、事務局の方からお願いいたします。

玉村編成部長

はい。9月のタイムテーブルからご説明いたします。今月9月は「あっぱれ！KANAGAWA 大行進」を表裏でご案内をしております。表は寒川神社です。1枚めくっていただきまして、こちらがレギュラー番組のご案内です。上の方は先だっってご批評賜りました「猫のひたいほどワイド」。それから、右側が「しゃかりき！」という番組です。中高生の部活動の応援番組でございます。下の方はレギュラー番組の「神奈川ビジネス Up To Date」「クルマでいこう！」「銭湯物語」という番組の今月分ラインナップです。もう1ページめくっていた

だいたのが中面で、番組表になっておりますが、今回は 9 月ですのであまり大きな変更はございませんが、山田委員長からもお話がありました、平日 15 時に放送しております「鬼平犯科帳」が別のシリーズに代わっております。そんなところがございます。もう一枚めくっていただきまして、こちらが特別番組等のご案内です。「プロ野球中継」は 9 月 8 日までのレギュラー放送分のご案内と、毎年やっております少年野球「横浜銀行カップ」。こちらの方はイベントでございますけれども、ちょうど今シルバーウィークで、住宅展示場が書き入れ時ということで、お客様の集客用にtvk番組の関連するイベントをいくつか実施しております。MC のトークショーとかそういったところです。最後にこの下のページが、私どもでやっている通信販売、インターネット販売の新しい商品のご案内です。キン・シオタニさんのイラストが入ったトートバッグ他、放送しておりました「戦国鍋 TV」、こちらが根強い人気がございますので、キーホルダーセットを作って販売を始めたところです。以上タイムテーブルのご案内でした。それから 9 月 10 月の特別番組一覧が別紙にございますので、こちらを改めてご参照ください。9 月 6, 7, 8 日が私どものプロ野球中継の予定されたものの最後でございました。それから 9 月 11 日が真鶴町長選の開票速報。川崎競馬中継をはさみまして、9 月 16 日が私どもの今年のラグビー中継の初回を生中継でお送りします。それから 9 月 22 日は中村から話がありましたように、特別編成をいたしましたプロ野球中継です。対ヤクルト戦。それから「横浜銀行カップ」「神奈川県議会中継」「横浜市会ダイジェスト」。10 月 1 日には同じくスポーツの女子サッカー、なでしこリーグの中継。ノジマステラvsちふれという試合を放送します。「ラグビー中継」が 10 月 1 日にもヤマハ対リコーがございます。「川崎競馬中継」が 10 月 4 日 5 日。「横浜市会ダイジェスト」、これは再放送でございます。ページをめくっていただきまして、

10月10日は「秦野たばこ祭」の今年の放送です。それから県議会予算委員会中継が10月19日から3日間ございます。例年関東5局で共同制作しております「秋季関東地区高校野球ダイジェスト」の30分番組、これを10月22日から生放送いたします。今年度はスケジュールが変則でございまして、ご覧いただくとわかりますが。10月25、26、27、28日、こちらの平日がすべて予備日でございます。土曜日に始まりまして、火曜日から金曜日まで休んで、また土曜・日曜が試合。月曜日が予備日設定です。そういった変わった形になっております。今年は栃木県での大会です。ちなみに来年が神奈川県での大会です。10月29日には「ラグビー中継」。23日にも「ラグビー中継」。これは関東学院大対流通経済大です。簡単ですが、以上でございます。

山田委員長

はい、ありがとうございました。事務局から9月から10月にかけての番組について説明がありましたが、これについて何かご意見ご質問等がございましたら。先ほど中村社長からお話を聞きましたが9月22日の対ヤクルト戦の「スペシャル LIVE」。これは何かその他にドキュメンタリー番組を制作するとか、そういう計画もあるんですか。

中村社長

そこら辺は。

角田スポーツ部長

すみません。ドキュメント番組は作らないんですが、ここまで、本当に初めてのCS進出ということで、それはおめでたいことでもありますので、いつもとちよっと雰囲気を変えて「CS進出おめでとう」という雰囲気で。ゲストにダーリンハニーという、ベ이스ターズが好きな芸人としては有名な方なんですけど、吉川正洋さんに出させていただいて、かなりにぎやかな感じで。なおかつファンの声なども入れながら、作っていこうと思っております。

山田委員長

ありがとうございました。こちらは3位になってそれでぬか喜びなんですけど、やはり先ほどのお話では2位と3位ではだいぶ違ってくる。他にご意見、ご

質問等ございましたら。よろしいですか。ないようでしたら、2番目の視聴合評の方に移りたいと思います。

土屋 30分番組なのですが、18分程度の編集をさせていただきます。

#### 視 聴 合 評

山田委員長 ありがとうございます。それでは委員の皆さんから意見を頂戴する前に、番組の制作を担当されたプロデューサーの方、あるいはどちらでも結構ですけれども、コメントをいただければと。

角田スポーツ部長 では先に。みなさんもお存じかと思いますが、神奈川の高校野球は当然学校も多いですし、人気が非常にあるところですし、その中で激戦区を勝ち上がった横浜高校は伝統校であり、全国を代表するような高校ですので、そこが甲子園に向けてこれから気持ちを新たにすると。そのために幾多の困難なことということで、番組にさせていただきました。詳しくはプロデューサーの竹野の方からお伝えします。よろしくをお願いします。

竹野プロデューサー スポーツ部の竹野と申します。お世話になります。今回この特番を作るにあたって、「横浜～新たな一歩～」という名前にしました。ご存知の方が多いと思うんですが、横浜高校というのは渡辺元智監督がずっとこのチームを作り上げて、常勝チームにして、そのチームを平田さんというまだ33歳の若い監督が引き継いだ、というストーリーが今年の横浜のストーリーかなという話から、「新たな一歩」というタイトルを付けさせていただきました。放送するにあたって、本当に高校野球の特番は、どこが勝つかわからないですし、制作まで期間的には1日2日しかないぐらいのスケジュールで作るので、自分の中でも「これを取り上げたい」「これは時間的に無理だ」とか、そういう自分の中での精査がかなり必要なところが、非常に大変なところかなと考えています。私の中では、当然試合に出ている選手、今回は藤平選手というすごいピッチ

ヤーがいて、今年間違いなくプロに入るだろうと言われている選手ですが、藤平君のようなすごい選手は、全国紙や全国のテレビ局でもいっぱいいっぱい取り上げられるので、その藤平君以外の選手をなるべく出してあげたいなという思いもあって、一人ずつのコメントを撮ったんですが。あとカットされてしまっていたんですが、入れなくて、壮行会で一人泣きながら、周りの選手が「お前よくやったよ」みたいなシーンがあって、そういう試合に出られないような選手も取り上げたいなと思ひまして、この番組にはそのシーンも入れたりとか、サイドストーリーとかも自分の中でポイントになるところかなという感じで、今回この番組を作らせていただきました。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。これから委員の皆様からいろいろ意見が出ると思いますが、質問あるいは批評というか、批判めいたことも出るかと思いますが、それは最後にまとめて竹野さんからお話をさせていただけばと思いますので、よろしく願ひします。それでは伊藤さんから願ひします。

伊藤委員

はい。壮行番組ということで、実際、第一試合の3日前に放送されたということですね。本当に時間がないとおっしゃっていたんですが、毎回壮行番組は番組審議委員会でもほぼ取り上げられる頻度が高いので、たくさん見ているんですが、とてもまとまりが良くて、30分とは思えない、密度とリズムと、無駄な脚色がない良い番組だと思ひました。一番素直に感心したのは、表情とかを、非常にいい表情、それからいい画角で拾い続けている。これはたまたま見つけたというより、全般的に映像の表情とかプレーの拾い方が非常に良かったので、これは放送番組として見る人、関係者には非常に喜ばれたのではと思ひました。あと松坂を最初にピックアップしたので、てっきり松坂から一言あるのかなと。そういうプレゼントを、壮行という意味で、ダイジェストではなくてあくまで壮行ですので、そういうプレゼントというのが可能性としてあったか

ないかを教えてください。最後に、まとめて結構です。最後に全員が一言メッセージとか言葉があつて、とても良かったんですが、ある意味私も野球は結構見る側も素人なので、ナインというメインの9人が選ばれる頂点みたいなイメージがあつて、その9人に少し強めのスポットを当てることは、ありやなしやというところを、後で教えていただければと思います。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。続きまして林さんお願いします。

林委員

はい。松坂さんから18年で、松坂さんのときに生まれた彼らが甲子園を目指しているタイミングですよ。それと渡辺さんから平田さんに移った。かなり期待されていたのに、関東大会で初戦で負けた。これはタイミングとっていかどうか分かりませんが、そういったものがちょっとマッチして。普段の壮行番組よりも、ちょっと雰囲気を異にした感じを受けたんです。普段の壮行番組よりも人間に迫っていたんじゃないかなという感じがしました。とりわけ平田さんもそうですが、選手たちは公家君がとりわけそうでしたけれど、なまじのプロ選手よりもしっかりしたコメントを言っていて。台本はないと思うんですが、ずいぶん立派な内容のある話をしていて。これは非常に良かったかな。壮行番組と、先ほど「人間に迫った」と申しあげましたが、平田さんが、たとえばプレミアリーグのマン U のファーガソンさんの後を継いだ監督が軒並みだめだったように、かなりあいつの方の後というのは難しいと思うんですが、そういった平田さんの思いというか、管理職といたら変な言い方ですが、そういった管理する立場の、指揮官の難しさというのが、いつもより身近に生の声として。平田さんもなかなか感情豊かな人で、非常にいい印象を受けました。たださっき申しあげましたが、濱野さんのところがカットされていましたよね。あれが非常に残念で。あれは非常にいいなと思って見ていました。あの番組自体は良かったですが。注文を敢えて言うとなると、選手たちは寮生活を送



っているはずですよ。ですからグラウンドの中もそうなんですが、寮生活でどんな感じなのかということを見たかった。教室と、そこまでは言いませんけれども、寮生活でどんな話をしているのかとか、上級生・下級生がどんな暮らしを日常送っているのか、というところを見たかったなと思っています。それから渡辺さんが最後にコメントされましたけれど、平田さんのどこを見込んで次に任されたのかということも、ちょっとインタビューの質問の中に入れていただければ。ちょっと生々し過ぎるかなという気もしないでもないんだけど、私自身としては聞きたかった。最後に選手が18人ぐらいですか、続けて出ましたが、必要なのかな、あそこまで全員見せるっていうのは。見せたいという皆さんの気持ちはわかるんですけど、ちょっと散漫になるんじゃないかと思いました。それと教えてほしいんだけど、制作まで非常に短期間だから、恐らく慶應高校が行く場合も想定されていたんだと思うんですね。慶應高校の場合は、どんなシナリオで想定されていたのか、余談で結構ですが、教えていただければ。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。続きまして吉川さんお願いします。

吉川委員

私は壮行会番組を拝見したのは初めてでした。ですからそういうまっさらな気持ちで申し上げたいと思います。まず最初に、今回のテーマは「渡辺監督から新生平田体制へ」というテーマで作られたという発想を聞きました。そうであるならば、冒頭のアナウンスと後のエンディングに2回に渡って、「18年前、松坂投手を擁した」という説明があるんですけど、これはもちろんそういう関連付けをしたいという制作側の気持ちはわかるんですけど、テーマとしてはつながってこない。むしろそういう伝統の重みを背負ったというところに、そこが結びつくならわかるんですけど、敢えて前と後ろに2回繰り返して同じことを言う必要は少なくともないだろうなと思いました。それからやはり伊藤委員が

おっしゃったように、壮行会なので、歴代の錚々たる伝統みたいなことを言うのであれば、輩出された先輩から「がんばれ」という応援メッセージがあってもよかったのではないかなと。松坂が無理であったとしても、他の先輩でもいいので、応援メッセージがあってもいいかな、というふうに思いました。それからメインのテーマである、「渡辺監督から新生平田体制へ」ということがあったとしても、壮行会なので、監督クローズアップみたいになっちゃまずいと思うんですね。やはりそこはチームという中で、平田監督率いるチームにスポットが当たらなければいけない。そういう意味では若干、たとえば冒頭平田監督に渡辺監督の偉大さを語らせたりとか、もちろん平田さんとしてはインタビューされたらまずそこを言いたいのはわかるんですけど、そこは聞いておいて、番組からは敢えてカットして。みんな渡辺監督の偉大さは知ってますし。でもそうではなくて、引き継いでどうプレッシャーがあって、何を悩んで選手がどうだったかというところが大事だと思うんです。せっかく選手の口からも渡辺監督からの口からも、「全員に対して投げ込みをしてくれる、これは並大抵のことではない」という言葉が出ていましたよね。であれば、ちらっと投げている姿は映ったんですが、できれば疲れ果てた最後の方の、「本当に全員に投げるのは大変なんだ」という表情が映っていたら、もっとリアリティをもって伝わってきたかなという気がしました。「じゃあ、平田チームってどういうチームなのよ」というのが、一番私たちにとっては知りたいところですよ。もちろん藤平投手とか全国に名だたる選手はいるわけですけど、一言でいえばこのチームはどんなチームかということが、ちょっと切り込みが浅くて。で、渡辺監督も自分の精神野球ではなくて、技術的な潜在能力を引き出すことに成功したという分析をなされたんですけど、それはまだ浅いですよね。それがもっと具体的に、どういうチームの特色なのかということをかみ砕いて、それ

が伝わるような映像なり解説なりがほしかったなというところをすごく感じました。やはり、もちろん渡辺監督を行かせてあげられなかった悔しさを、藤平投手も言っていました、そこからつなぎ、なおかつ優勝候補と言われながら春の選抜を逃した悔しい思い、そういうものが起爆剤となっているのがインタビューで伝わってきたのは、とつてもよかったと思うんですけど。エポックになったと選手たちが言っている「冬のミーティング」というのも「良かった」ということだけで終わっちゃってるんです。何を、どういうことが出されて、それがみんなの団結に伝わったのかという、それが全然言われっぱなしで終わっちゃってるんで。何かそれが本当にエポックなんだったら、時間のなかで作られたんでしょうけれども、ただチームの方たちとも、普段から取材をして距離が近いのであれば、もうちょっとインタビューで引き出して、そこら辺をチームの特徴というところで、深く出してほしかったなということを感じました。濱野選手の話は、今回のメインの選手たちでないにしても、作り手の優しさが伝わってきて、ほのぼのとして、「ああ、いいエピソードを拾っていただけたな」と思って見ていました。最後に一言ずつというのは、私も単に顔が出て「がんばります」と、ありきたりの誰が出て同じことを言うだけだと、ちょっと素人さんの番組さんみたいになっちゃうので、もったいないなと思うんですが、「こんな選手がいるんだよ」ということをみんなに知らせる意味では、登場してもいいかなと。それであれば、名前と学年しか出ていなかったんですが、ポジションとかを出していただけたら、見る側もわかりやすく見られたかなというふうに思いました。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。続きまして白石さん。

白石委員

監督が交代して、神奈川大会で優勝したということですが、渡辺監督から代わったということは、見る段階から興味がありました。特に渡辺監督から引き

継いだ新しい監督は、大変だったんだなと思いました。まだ 40 歳でしたっけ。

竹野プロデューサー 33 です。

白石委員 33 歳。渡辺監督が指名したのか、学校側が指名したか知りませんが、優勝したことはよかったなと思ったところです。子供たちは 3 年間、渡辺前監督に指導されているわけで、新たな平田監督はどこを変えてきたのか。どこを変えたのか。渡辺前監督のやり方をずっとやったのか、あるいは自分のカラーを出した指導をやったんだということが、ちょっとわかりにくいなと思いました。これは 1 年 1 年新しい渡辺カラーを払拭して、いい指導者となるように頑張っていたきたいなと思ったところです。それから我々が感動するプレーはいつもいつも期待するんですよね。3 割バッターといっても 10 回のうち 3 回しか打てないわけですから、ほとんど期待を裏切ってバッターボックスでがっくりするわけです。それはプレーにしてもあるいは打つにしても、取るにしても、連携についても、やはり感動のプレーは見る人の心を打ちます。そういうことを、特に平田監督は、渡辺監督が言っていましたけど、個性を生かした指揮者をやってもらいたいと話がありました。是非そうなってもらいたいなというふうに思ったところです。良かったと思います。以上です。

山田委員長 ありがとうございます。布施さんお願いします。

布施副委員長 どう勝つかわからないのに、最後に横浜高校が勝つということを前提にして、ストーリーが逆になって。あれは、他の高校が勝って甲子園に行くというケースだって考えられるから、いくつか並行的に撮っているんですか？それとも横浜高校だけに絞っちゃって？

竹野プロデューサー そのために秋の段階で「ニュース930」などの番組を使って、いろいろなチームを、白石はちょこっとずつ打っていかないと撮れないので、少しずつやるようにしています。

布施副委員長

そういう余計なことを考えなければ、なるほど横浜高校はこういうことをやって、監督もこういうことを考えていて、それで行ったんだなど。選手もこういう人がいるなどわかって、番組としては全然問題はないと思うけど、違う観点から言うと、今言ったように、「高校野球壮行特別番組」ってなっているけど、他の、私の教え子なんか、いろんなところで高校野球に関わっている奴がいるけど、横浜高校なんて、はっきり言えばほとんど別枠で。要するに「高校生の野球なんてさ」というレベルじゃないんです。全国から非常に苦勞していい選手をスカウトしてきて、ここに入れているわけでしょう。ひょっとしたらそいつは、高校野球が終わってからプロに行く可能性だってあるわけだから。そういうのと、なんか真っ黒になって、勉強と両立するとかと言われながらやっている高校とは全然違う。そういう点から見ると、多分私の教え子とか、「よその世界であって、普通、高校野球っていうのは違うんじゃないの」と、そういうことを若干感じるんじゃないかなと思ったからね。そもそもどうポイントを当てて、いつも同じことを言っているんですけど、この番組を作っていくのかということを考えておかないと。ただ「勝った勝った」って。そのためにどこがポイントだって、超優秀な先生の渡辺さん。私は渡辺さんを個人的にも知っているけど、「あいつはいいよ」って言ってさ。そりゃそうですよ、もともと子供の時から見ているわけだから。小学校からちゃんと見ているわけだから。そういうふうになると、「神奈川県の高校野球は横浜高校ですよ」という感じには、私は思えない。だけど、もっと様々な高校が高校野球に取り組んでいて。その中で横浜高校は本当に野球に関しては特異な高校ですから。だからその辺も含めて、どういう形で横浜高校の宣伝にならないように、もっと高校野球というものがじくっとしみこんでくるような番組構成に、もうちょいと工夫がいったんじゃないかな。見ていると、横浜高校の野球部の宣伝コマーシャルみたいな感じが

しちゃったの。間違ってるよというんだったら言って。だから番組としてはものすごく完成度が高くて面白くていいんだけど、それ以上のことを何か言えとなったら、私が今いったような点しかないということです。

山田委員長

ありがとうございました。後で十分反論していただいて。私も楽しく拝見させていただきました。あの限られた 30 分という時間の中で良くまとめたなという感じがします。非常に番組そのものもテンポよく進んでおりまして、女性のナレーションも非常に落ち着いていてよかったですね。それからこれは後でお伺いしたいんですが、平田監督はまだ 33 歳というのに、非常に落ち着いていいコメントが出ましたね。今の 33 ぐらいの人たちの中では、ああいうような話ができる人は、そうはたくさんいないなど。あれはぶっつけ本番だったのか、あるいは事前に質問事項を書いて渡していたのか、ちょっとその辺もあとでお伺いしたいと思います。それと選手たちですね。選手全員を出す必要はないなどという、言っていることも同じだとは言うけれども、これは壮行番組なので、生徒たちを一人一人出すのは、私はよかったかなと思います。同じようなことを言っていますけど、やはり 18 歳 17 歳の高校生ですので、それは仕方ないなどということだと思います。非常によかったですけど、いくつかこういうふうにしたらいかななどというところがありまして。これは皆さんも言っていました、壮行番組でしたら、冒頭に話をさせていただきましたように、ベイスターズには横浜高校出身の選手、コーチがたくさんいますので、その中の例えば筒香とか、そういう選手に語らせる。若いのもいますよね、乙坂ですか、彼なんてまだ 23~24 ぐらいですよ。松坂は福岡にいますのでなかなかコメントも難しいと思います。それと、これもいろいろ話に出ていましたけど、平田監督と渡辺監督の縁。渡辺監督のコメントの中に、平田監督の手腕を買っていて具体的な話をしていたんですが、そこをもうちょっと踏み込んでいただいて、たと

えば平田監督同期、あるいは平田監督の先輩・後輩のコメントも入れたら、もうちょっとその辺のことが浮き彫りになったのではないかなという気がいたします。非常に全体としては、良くまとまっていたなという感じがいたします。これを見た後、甲子園で1回戦の東北高校には勝ちましたけど、あれ、たしか仙台育英でしたよね、雨で中断になって。

竹野プロデューサー 履正社ですね。

山田委員長 大阪の履正社でしたか。あのときに、見ていたんですけど、この雨は必ず横浜高校につくなと思ったんですけど、大差で負けてしまいました。この番組を見た後だけに、残念だった思いがいたします。あと言い足りなかったこと、言い忘れたことがございましたら。よろしいですか。それでは竹野プロデューサーの方からいろいろ注文、質問を受けましたけど、どこからでも結構です。

嶋田報道局長 最初、私の方から。布施委員の方からもいろいろ番組の、横浜高校の、ということだったんですが。今回の番組については、高校野球神奈川県大会が終わってその時点で、現在のチームの体制でその先があるのは横浜高校だけということで、毎年この高校野球神奈川県大会を勝ち上がって、次の甲子園に向かうエールを送る意味で、それぞれ毎年担当者が考えながらですけども、そのチームにある程度ターゲットを絞って番組を作らせているというのはあります。そして他の高校については、大会期間中、高校野球中継で連日それぞれのチームの放送をやっておりますし、夜に「高校野球ニュース」というのも期間中やって。それがどちらかというと、勝ったチームもそうですけども、中継できなかったチーム。そしてその日に敗れてしまったチームなどにも、できるだけスポットライトを当てながら放送していくということで、少し今回も、番組がどちらかというと優勝した甲子園に出るチームにターゲットを絞

って、という形で作らせているというところでもありますので、そのあたりもご理解いただければと思います。

竹野プロデューサー いろいろ貴重なご意見をありがとうございました。いろいろご意見をいただいて、率直な感想は「そうなんだよ、僕もそうしたいんだよ」というのが何個かあって。おっしゃったように平田監督の同期のコメントとか、元チームメイトのコメントとかも、本当は撮りたかったんですけど。31日に終わって1日に表敬訪問などをして、2日にこれを取材させていただいて、3日にもう出発しちゃったというスケジュールだったので。特に、今年神奈川は、全国でも優勝が決まったのが一番おケツになってしまって、そこから5日間ぐらいしかない状態でやったので。たしかに松坂の声が拾えれば。松坂はちょっときついんですけど、横浜ベイスターズの選手の声とかは、本当にあっても良かったなと思います。それは私も、スケジュールとスタッフの問題があれば入れたかったなという感じがしました。あとは皆さんのご意見にありました、選手一人ずつの声ですが、私もすごい、言い方は変ですが悩みどころでした。実は高校サッカーの壮行特番も作っているんですが、去年私も、一人ずつのコメントを入れるとストーリーがそこで分断されちゃうので、実は「入れたくない派」だったんです。一昨年ぐらいに作った壮行特番は入れなかったんですが、去年東海大相模が甲子園に行ったんですが、そのときに、東海大相模は本当にレギュラーで出ている選手がすごい選手ばかりで、プロ野球にも2人行きましたし、有名な選手ばかりなんですけど、控えの選手がほとんど試合に出ないチームだったんです。なので、中継の時もほとんど画面にも映ることなく。ただチームを陰から支えている選手たちなので。去年、壮行特番のときに控えの選手も一言ずつ入れてあげたら、やはり2年生の子も多かったんですが、「tvkに出られて良かった」とか。父母の方からも「うちの子は中継には出られなかったけど、tvk



に5秒だけ出られたよ」という声をすごいいただいて。そういう選手たちを入れるのも地元ローカル局のあれなのかなと思って、今年に入れることにしました。これは、本編のストーリーを鑑みてやろうかなというところが自分の中の課題としています。今年に入れさせていただいたような状況です。寮のシーンも撮れたらよかったんですが、その辺はなかなかちよっとうまくいかずというような感じになってしまいました。あとは、慶應が優勝した場合というのは、私も「どうしようかな」と思っているぐらいの感じでした。なぜかという、おっしやる通り横浜高校が本当に秋からダントツに強かったので、多分高校野球関係者は横浜が99%か100%ぐらいで構えていたと思います。なので当然ベスト4ぐらいに上がってきたりすると、そのチームの選手にいろいろ取材をしたりサイドストーリーとかも聞くことができるので、いろいろ想定は少しずつは考えていましたが、今年に関しては「横浜高校、頼むぞ」というのも変ですけど。それぐらいの感覚で作ってしまいました。あと今年のチームの特色とか、「渡辺監督から平田新監督に」という話だったんですけど、一応ストーリーとしては渡辺監督から未来ある平田監督に引き継がれたというストーリーなんですけど、実際にはチームを動かしていたのは去年まで渡辺監督で、選手たちは渡辺監督が中心になってきて拾ってきた選手たちなんですね。なので平田監督は本当に素晴らしい監督なんですけど、やはり側面としては渡辺監督のチームで今年は戦ったという、放送ではあれですけども、ストーリーがあるんですね。なので、かなりこれから横浜高校は厳しい戦いになってくると思いますが、逆にそこも、数年かけて横浜高校の新しい平田監督の苦悩なんかもこれから撮っていきたいなと思います。いろいろサイドストーリーとかも、横浜高校は秋から強かったので、いろいろ取材をしていてあったんですけど、キャプテンがお話のあった公家くん、秋の大会が終わった時点で代わったりしたんですけど。

そういうストーリーも本当は。一応表面上は、前の戸堀君が怪我をしてという話もあったんですが、あまり戸堀君がチームとして機能してなくて、もっとしっかりした公家君に代わったみたいなストーリーがあったりして。番組的にはあまり表に出せないようなストーリーが裏にあったりして。そこら辺はちょっと放送で使う・使わないのは非常に難しいところで、悩みどころだったかなという裏話もあったりもします。そんな感じですかね。

山田委員長

はい、ありがとうございました。竹野プロデューサーからいろいろ細かく説明していただきましたが、他に何か質問等ございましたら。今の関連について、よろしいですか。どうぞ伊藤さん。

伊藤委員

こういう審議委員をやらせていただくことで、毎回見るというふうになっていて、そんなに自分から野球の中に飛び込んでいくほど野球に興味がないので、かえって思うんですけど、僕の中で、表情とか映像のクオリティとかが、今まで見たものより高かったというのが、自分の中で一番評価が高いポイントだったんです。良くとらえたなという。よくできたなという気持ちと同時に、これを撮る技術があれば、もっとスポーツ選手としての瞬間っていうんですか、それをとらえる。これは時間がない中というのと、技術的もしくは撮影演出の進歩とかそういう部分、少し何かビジュアルとして、スポーツ選手の、見ただけで説明がいらぬぐらいの感動というか、見ただけで応援したくなるという、そういうようなビジュアルとしての追究がないと。壮行という気持ちで見ていると、やはり「形骸化したいつものパターンだな」というふうに、醒めていってしまう気持ちも、ほんのちょっとあるんですね、正直言うと。そういうところで監督交代劇というところは本来の軸であるんですが、やはり見た方の感動を呼ぶというところで、スポーツを映像としてとらえていくというところで、やはり他の世界中の映像や演出的なものからヒントを得たりとか、改善していくというのは、

可能性はあるのでしょうか。

竹野プロデューサー そうですね。どうでしょうね。高校野球自体が、高校野球に限るんですが、かなり取材規制がすごい競技で。たとえばデジひとつ持って選手たちに密着してとか、その裏側を撮ったりというのがなかなかできない競技なんです。なので、座ってしっかりした形でインタビューという形にならざるを得ないところがあって。本当にナレーションもいない、本当に現場で起きていることだけを見せるみたいなのができるればいいなと思っているんですが。なかなかちよつと難しいところがあるのも現状かな、という感じですね。スポーツとして見せるというのが課題にもなると思うんですけど。

伊藤委員 今年、オリンピック、パラリンピックとか、映像とかを見ていて、根本から違うものですけどね。特にパラリンピックの、プロモーションとしてロンドンで作られた映像というのが、世界中でYouTubeで話題になって。パラリンピックに出場する、見た目の形で足がないとか、そういうような方がものすごく美しくとらえられているわけなんです。プロモーションとして撮っているの、演出もバリバリに入っているの、本来この番組とは根本的に立ち位置が違うんですけど、やはり映像の力をそこで感じざるを得なかったんですよ。今の話で、いろいろ見えないところで制約が多いというのは、非常にその中で酷ではあるんですけど、敢えてこういう場なので言うならば、そこを何とか時間をかけて崩してでも、さらに見る人への感動ということに挑戦していただければうれしいなと、勝手なことを思いました。

竹野プロデューサー ありがとうございます。

山田委員長 はい、他にございませんか。

白石委員 いいですか。

山田委員長 はい、どうぞ。

白石委員

ちょっと変わりますけど。応援団。今年の春に甲子園で見て来たんですが、応援団は負けても勝っても、素晴らしい演技なんですね。大勢の人と学生が特訓を受けて。プレーは別ですよ。そういう子供たちが一生懸命頑張っているところを、番組で取り上げてほしいなと思ったんですね。暑いところで脚光を浴びないで、選手のためにチームのために頑張っているわけです。プレーとは別にして「応援団」として脚光を当てられないか。今すぐできるとかではなくて、そういうところに視点を当てて、番組をやってもらいたいなと。脚光の当たらないところに光を当てていくということを感じましたので、一言意見を述べさせていただきました。

角田スポーツ部長

この番組は、何年も前から甲子園の前には放送しているんですが、過去には応援団にスポットを当てて作った時もあったと思います。今回は渡辺監督から平田監督へのバトンというのがメインですが、前の大会の中継、大会の本番のときは、当然選手が主役ですけども、それを応援しているクラスメイトとか、応援団とか。僕もブラスバンドが一番大変だと思うんですけど。あの暑い中で、楽器を抱えて一生懸命演奏している。そういう人たちもアナウンサーが取材して、「何組の誰々が一生懸命やっています」ということもお伝えしながら放送していますので。高校野球というのは、当然選手が主役ですが、周りで励ましている応援とか、みんなで作り上げているものだと思いますので。大会の方は、そういうので基本的にやっています。今回はこういうのでやりましたけど。それも考えながらやっていきたいと思います。

吉川委員

私からの壮行会じゃないんですけど、制作者の方への応援という意味で敢えて申し上げるんですが、さっきいろいろ制約があるとおっしゃっていましたが、もちろんそれは事実だと思うんですが、たとえばピッチングコーチをしているところだって撮れているわけじゃないですか。それをもうちょっと、たとえ

ば顔に迫ってみるとか、それから選手の中に、渡辺監督とは違って距離を縮めるということをしごく心がけたと言っているのであれば、選手にどういう叱り方をしているかということは、練習が撮れていれば選手への声、肉声とか絶対撮れると思うんですね。そういうさりげない映像にどれだけ気を配ってそれを引き出してくるかというのが、まさにみなさんの腕の見せ所だと思うので。それはいろいろ制約があるのはわかりますけど、やはりキーワードになるところにふさわしいような映像を全く撮れないわけではないと思うので、そこは目いっぱい頑張ってもらいたいと思います。以上です。

山田委員長

これはあれですか、スポンサーは横浜高校になってるわけですか。横浜高校、それから父母会とかいろいろ。バックに出ましたけど。そういう団体がある程度スポンサーということについて、横浜高校野球部 OB 会とか、学校そのものの、父母会とか。で、完成した番組は先方に見せるというか、そういうことはなさっているんですか。

嶋田報道局長

事前に見せるようなことはしないです。

山田委員長

それはないんですか、全く。

中村社長

今委員長がおっしゃったのは営業的な部分のところなので、それは私から言いますと。まあ、不特定多数のスポンサーが付いてくれればいいわけですが、制作日数が非常に短い中で、セールスはその期間よりも短い期間。つまり放送は前日のうちに出来上がれば放送できますけど、営業の方はそれよりもさらに2~3日時間が短くなってきます。まずは学校関係というところで、それ以上にはなかなかセールスが広げられないという現実が一つあるのと、たとえば、それこそ何十年ぶりに優勝するということになると、結構いろんな OB が、その手前からいろいろ、「もし優勝したら応援してやるよ」という声が上がったりするんですが、わりと常勝、横浜高校なんかそうですが、常勝のところは甲

子園に行くだけでも父兄会はむちゃくちゃお金を遣っちゃうので。あまりそういうところ以外にお金を集めるのは、商店街なんかも難しいと。いろいろ事情があります。

山田委員長 最近は大学でもそうなのですが、運動部に父母会というのがあって、結構大きな力を持っていますけど、父母会などからの反応はどうか、放送した後。特に。

竹野プロデューサー 甲子園に実際に取材にも行っていたんですが、そのときの父母の方々からは「見たよ」とっていただきました。ただ、おっしゃるとおり父母の方は県外の方が多いので、実はあまり見られていなかったとか。

山田委員長 今何人ぐらいいるんですか、部員は。130人ぐらいいますか。

竹野プロデューサー そうですね、100人ぐらいでしょうか。

山田委員長 その中でベンチに入るっていうのは、ほんの一握りですよね。他にございませんか。それでは竹野さん、丁寧にありがとうございました。続きまして、3番目その他報告事項に移りたいと思います。

玉村編成部長 はい。まず視聴者対応の方からご説明申し上げます。「視聴者対応について」という資料をご覧ください。7月18日から9月16日までと、8月がお休みでしたので、二月分の視聴者からの反応塔をこちらをご覧ください。Eメールが13,000弱、電話が1,500件程度。おおよそで言うと、倍ぐらい、二月分の数字がございます。いくつかピックアップしてこちらにご紹介しています。「あっぱれ！KANAGAWA 大行進」「かながわ旬菜ナビ」「カナフルTV」「クルマでいこう！」「LOVE かわさき」「Spirit ベルマーレ TV」。「洋楽天国」は古い曲を流す日がございます、それに対する思いです。裏をご覧くださいますと、こちらが各番組に対するメールの件数状況です。「猫のひたい」がおかげさまで非常にたくさんご反応をいただいて。プレゼントへのご希望も含んでお

ります。こういう演出をしている番組がたくさんメールをいただいているわけですが、3分の1ぐらいが「猫のひたい」へいただいております。簡単ですが、以上です。

山田委員長 ありがとうございます。事務局から視聴者対応について説明がございましたが、これについて何かご意見ご質問等ございましたら、よろしいですか。ないようでしたら、前回の番組審議会の模様に移りたいと思います。

#### 議 事 報 告

山田委員長 これで本日の議題はすべて終了いたしました。事務局の方から通達事項がありましたらお願いします。

玉村編成部長 本日も都合で二宮先生と五大先生はご欠席でございます。五大先生から言付けとお預かりをいたしておりますので、コメントと共にご紹介をさせていただきます。「横浜ローザ 20 周年記念公演が無事終了することができました。心より感謝申し上げます」ということでもございました。各委員の皆様には、20 周年記念誌と、来年度のチラシをお預かりしましたので、お手元に置かせていただいております。どうぞご覧ください。そういうことでもございます。それから、今回は 10 月 18 日火曜日午後 2 時から 3 時半ということで、こちらの方で開催させていただきます。視聴合評につきましては「かながわ旬菜ナビ」、JA 神奈川さんの番組ですが、こちらをご覧くださいましてご批評賜りますよう、お願いいたします。こちらの方からは 10 月 9 日放送分、「あなたの知らないイネ科の世界」というサブタイトルですが、こちらの番組をご覧くださいましてご批判を賜りますようお願いいたします。

山田委員長 ありがとうございます。他に委員の皆様から何か伝えたいことなど、ございますか。特にありませんか。ないようでしたら、今日はこれにて閉会とさせていただきます。ありがとうございます。

